H21.7.5.

accototoの にこにこ散歩 ⑩

感謝の気持ちで生きる

出産の記憶

にこの1歳半健診を前に母子手帳を見ていて、ふと出産の時のことを思い出しました。2日がかりのお産でした。痛みも疲れもひどく、「いつまで続くんだろう?」と思いながら、もがき、耐え続けた記憶がよみがえりました。

痛かったのは覚えているのに、どんな痛みだったか思い出せないのは、陣痛のため眠れず、寝不足で感覚が鈍くなっていたからでしょうか。一番よく覚えているのは、「一人の人間を産むのに、精神的、肉体的に、こんなにパワーがいるのか」と驚いたこと。想像をはるかに超えていました。

最後にいきんだ時は、あらん限りの力を振り絞りました。出てきた赤ちゃんはとても小さく、はかなかったけれど、私の体には、とても大きな何かが出ていった感覚があります。命の重さを実感したものです。

おなかに赤ちゃんがいる感覚は独特で、娘が胎児だったころが、たまに懐かしくなります。そんな時は、娘の足のかかとを触る。そうすると、おなかの中の娘が、足を動かす独特の感触を思い出すことができます。

私は幼いころ、人間の争いや身勝手さ、ずるさに、怒りをためているような子どもでした。それが歳を重ねるにつれて、「大人の事情」も少しは理解できるようになり、複雑な気持ちを抱えてきました。

でも、にこを産んで、「受け入れよう」と思うようになりました。すべての人間が等しく母の胎内で育ち、母子ともに苦労してこの世に生まれ、生きていく。ならば、いま生きていることに、感謝しよう。そう考えるようになりました。

ある本の中で、沖縄のおばあが「産めたのだったら、育てられるさぁ」と話していました。「子育ては、なるようにしかならん」と言ったのは、知り合いのおばちゃん。子育ての悩みはこれからも尽きないだろうけど、こうした言葉がきっと力を貸してくれる。そんな気がしています。

（絵本作家）

＝おわり

コラージュ・accototo